

第46号 通巻9巻第5号 1989年9月1日 発行 守山市立埋蔵文化財センター ☎ 0775-85-4397 〒 524-02 守山市服部町2250番地

かっており、ゴミ葉で用の穴ではないかと考えられます。

今年の夏は一時期、猛暑のことばがそのままあてはまる日が続きましたが、お盆 を過ぎるあたりから雨の降る日が多くなって、例年のような残暑らしくありません でした。今はもう朝夕心地よい涼風が吹いて、重く垂れ下がる稲穂が風にゆれてい る風景は、もう秋本番というところです。

さて、前号以降天候にも恵まれて、発掘調査が順調に進みましたので、この結果 を中心に報告します。

☆発掘調査だより☆

〈調査完了〉

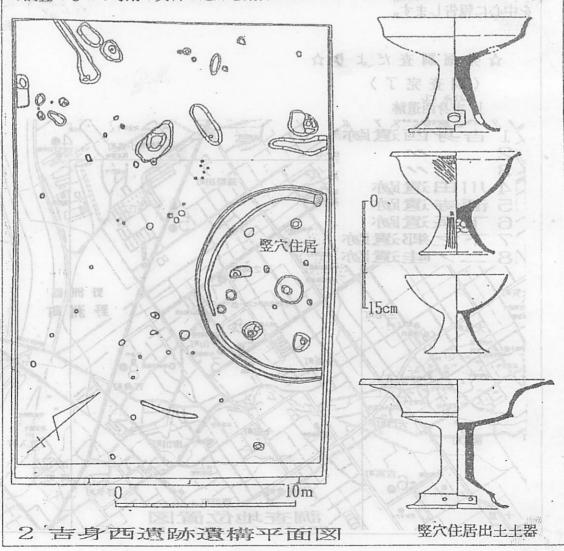


現場は7月中頃に調査が終了しましたので、調査結果を報告します。前回の「乙貞」で紹介しましたが、7世紀頃の掘立柱建物6棟のうち3棟は規模が大きく豪族の住居と考えられます。また2棟は倉庫跡で住居の近くに米や農具、武器を収納したと考えられます。これらの建物の他に、4世紀頃(古墳時代前期)の竪穴住居が1棟確認されましたが、土器が入った大きな土壌と切り合っていて住居の形、大きさは不明瞭です。この他にも、同じ時期の土器の入った大きな土壌が2ケ所みつかっており、ゴミ薬て用の穴ではないかと考えられます。

2 吉身西遺跡 はおりはままのうれおろこの書話 川浦一川夏の平今

7月初旬から県立成人病センターの南西側、歯科医院の南隣で倉庫建築に先立って約500㎡を発掘調査しました。

この一帯は弥生時代中期から後期にかけての集落や墓域が検出されており、今回の調査でもこの時期の資料の追加を期待したところです。結果は旧耕土の直下で、

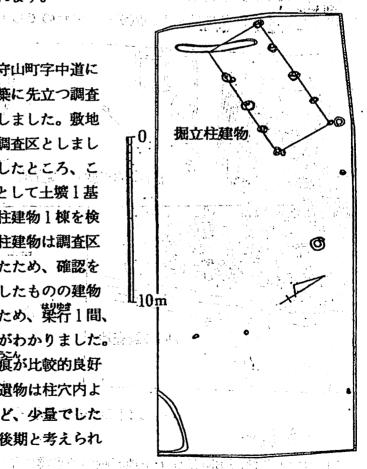


弥生時代の竪穴住居、ピット、満状遺構、土壙が検出されました。特にみつかった 遺構の中で注目されるのは竪穴住居跡で、直径川血の規模をもった円形竪穴住居で す。住居内には中央に直径70cmの炉跡があって、その周囲に5本分だけ主柱穴が確 認された。また外周の壁下には幅20cm、深さ5~10cmの細い溝が巡っており、さら にこの識の60cm内側にも同様の違があって、建て替えの行われたことがうかがえま す。検出された部分の西北端では土器が4個体分まとまって出土し、この土器から 弥牛時代後期(約1800年前)の住居であることがわかりました。

吉身西遺跡ではこれまでに方形(一辺5m前後)、五角形の竪穴住居がみつかっ ており、弥生時代の集落跡が広く分布しています。これらの中では円形の住居は初 めてであり、主たその規模が極めて大きく、県内最大であることから、このムラの 長が住いしたものと考えられます。

3 吉身西遺跡

食糧事務所の東にあたる守山町字中道に おいて、店舗併用住宅の建築に先立つ調査 を8月18日~23日まで実施しました。敷地 面積557㎡のうち約360㎡を調査区としまし た。重機にて旧耕土を掘削したところ、こ の直下で黄灰色粘土を地山として土壙1基 ピット7穴、溝1条と掘立柱建物1棟を検 出しました。このうち掘立柱建物は調査区 外へ広がることが予想されたため、確認を しましたが、ピットは検出したものの建物 を構成するものでなかったため、製作1間、 **桁行 4間の建物であることがわかりました。** この柱穴内の3ケ所には杆痕が比較的良好 な状態で残っていました。遺物は柱穴内よ り須恵器の保護や土師器など、少量でした が出土しており、古墳時代後期と考えられ 本的製造 14 多大 (製造)(2 3 m) 建自 · 产的 (增加) ます。



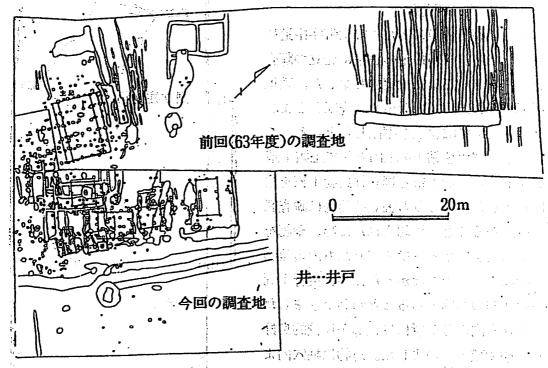
3 吉身西遺跡遺構平面図

中 等**4、加血遺跡**等。)2220年2月第一次3年月第20日於1920年1月

川田遺跡は工場増設に伴い、昭和61年か これまでに馬型埴輪や人物埴輪が出土した前方後円墳や江戸時代に野洲川の洪水で 流出したと伝えられる合村の一部がみつかっています。

今回の調査では鎌倉時代(約800年前)の屋敷跡が発見されました。屋敷は前回の調査成果と合わせると南北40m以上、東西45m以上の敷地をもち、その内に主屋や倉庫などの建物と井戸があることがわかりました。井戸は5基みつかっていて、いずれも曲物(海い板を桶状に丸めたもの)が水だめとして底に据えられていました。井戸や溝からは土師器小皿や黒色土器碗などの日常雑器を中心に、釘やのみ、刀などの鉄製品、土錘(魚網のおもり)など当時の生活用品がたくさんみつかりました。

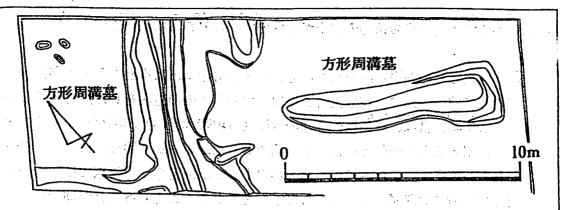
今回発掘された屋敷跡の東側約60mには前々回の調査で別の屋敷跡がみつかっていて、当時は家が比較的離れて建っていたことがわかります。家と家の間は畑などに利用され、その回りには水田が広がっていたのでしょう。



4 川田遺跡遺構平面図

5 競等遺跡

7月中旬より播磨田町地先で土地区画整理事業に先立ち、約7000㎡を対象に発掘調査を進めています。酒寺遺跡は弥生一古墳時代にかけての集落遺跡と考えられていて、昭和59年度に行われた調査では弥生時代後期の竪穴住居、方形周溝墓が検出されています。今回は道路部分の調査ですが、面積も広く、酒寺遺跡の全体の広がりがとらえられるものと期待されています。現在、近世の溝や土壌が検出されている他、弥生一古墳時代初頭の方形周溝墓や溝跡、土壌がみつかっています。方形周



5 酒寺遺跡第5トレンチ遺構平面図

構基は一辺10m程の大きさで、5基検出されていて、土師器や弥生土器、麓製の茶 塑塔別岩琴などが出土しています。この方形周溝墓に切られた方形の土壙からは管 宝やなつめ玉などの玉類が古式土師器と伴出していて、古墳時代前期の玉生産を考 える上で重要な資料となるでしょう。

6 学镁遺跡

今年4月より実施している古高町下長遺跡の発掘調査は、4ヶ月を経て多くの成果を収めつつあります。平成元年度調査予定面積約10、000㎡のうちおよそ 4、000㎡を終了しましたので、いわば前半の調査をまとめて報告したいとおもいます。

今年の調査対象地は、古高工業団地の道路向いにあたる新しい工場建設地で面積約65、000㎡の広さをコ字状にとりまく、道路、掘壁、貯水池建設地で、そのうち2辺の調査をおおむね終えました。まずこれまでの調査でみつかった生活跡を列撃すると、縄文時代晩期の土器・打製石器、弥生時代中期の竪穴住居・掘立柱建物・土坡・ピットやそれに伴う土器・石器、弥生時代後期の掘立柱建物・土坡、古墳時代前~中期の竪穴住居・掘立柱建物・土坡・溝と土器・金属器・石製品・木器、平安時代中期の掘立柱建物・土坡・ピットと土器、そして調査区域の真ん中を東西方向に伸びる大規模な削減道と多様な成果を得ています。

縄文時代の集落の存在は、今のところ明らかではありませんが、弥生時代~古墳時代の集落は旧河道の右岸に営まれていて、川辺の近くに居住地を選んだものと考えることができます。弥生時代~古墳時代には竪穴住居が住居の主流であるのに、ここでは竪穴住居は弥生時代中期2棟、古墳時代前期1棟とわずかで、掘立柱建物が15棟以上をかぞえ、掘立柱建物に住んでいたようで、この集落の特徴として挙げることができます。そして旧河道からはその当時使われていた生活品が多く出土しています。なかでも比較的残りにくいハシゴ、スキ、クワや剣のつか、火をおこす時の道具であるヒキリウスなどの木器、木製品や銅鏃も出土しています。またこの

旧河道からは平安時代の遺物の出土がないので、このころには河道はすでに埋役していたのでしょう。

今後、河道とその左岸を調査していきますが、対岸にあたるところでの発掘調査では古墳時代前~中期の土焼や土器を検出しているものの生活をした痕跡が乏しいことや今も松環、狐塚、幸田塚の3基の古墳(古墳時代後期)が現存していることなどから、川向こうが一体どのような空間であったかがちかく明らかになってくるものとおもわれます。また古代の生活品が出土した旧河道も、現時点ではほんの一部を調査したのにすぎず、これからも貴重なものが多く出土することが期待できます。

く今後の調査予定〉

7 宁夕知遺跡

下之郷町字上黒田708番地に所在する三光化学株式会社滋賀工場の敷地内で、工場の増築工事に先立つ調査を9月末から予定しています。下之郷遺跡は昭和58年の調査で3条の大溝が検出されて以来、環際集落として位置付けられるようになりました。工場内でも昭和62年に調査を実施しており、やはり環際が検出されて、その規模は推定で直径が350mにも及ぶものです。今回の調査からも環際がみつかると考えられ、新たな資料増加がのぞまれます。

10月中旬より吉身町の株式会社八木所有地で調査を予定しています。この調査地の西側隣接地では、昭和61年に宅地造成に伴って調査が実施されており、弥生時代中期を中心とした竪穴住居とこれを囲む環濠がみつかっています。今度の調査地はこの環濠とその外側部分に当たるもので、遺構のあり方に興味がよせられます。

☆現地説明会を開催☆

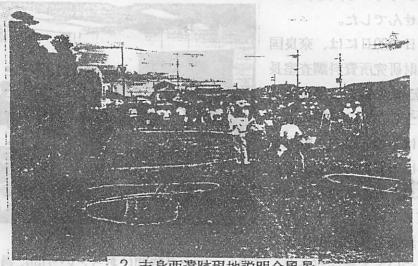
吉身西遺跡・川田遺跡で現地説明会を開催

7月15日と29日に吉身西遺跡で、8月26日には川田遺跡で現地説明会を開催しました。15日の説明会は天候にも恵まれ、またバス停前とあって、立ち寄って見る人が多く、大変盛況でした。29日は県内でも最大級の円形竪穴住居の説明会とあって、不安定な天気にもかかわらず約50名近くの見学者がありました。一方川田遺跡では、鎌倉時代の屋敷跡がみつかり、遺構の説明が始まると見学者は熱心に聞き入っていました。

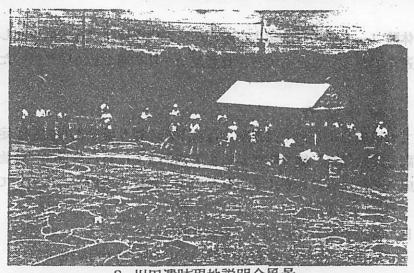
なお、この3ヶ所の調査概要については、前号の一部と今号の調査番号1、3、4 で報告したものにそれぞれ該当します。



1 吉身西遺跡現地説明会風景



2 吉身西遺跡現地説明会風景

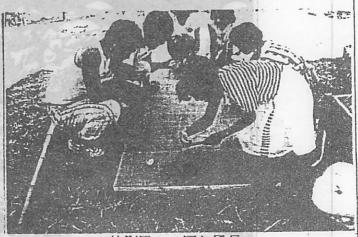


3 川田遺跡現地説明会風景

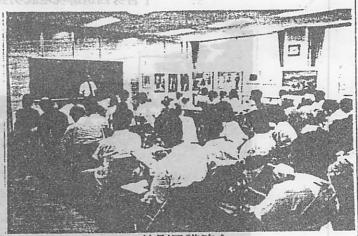
☆夏季特別展終了☆

表る8月13日より20日までの8日間開催しました特別展は、期間中約400人余の来観者がありました。今回は野洲郡内から出土した文字資料の展示をし、バネルによって説明を行い、奈良時代の野洲郡を知っていただこうとしたものです。見学者は実物を目の前にしてガラスごしにじっくりとながめている人も少なくありませんでした。

最終日の20日には、奈良国 立文化財研究所資料調査室長 綾村 宏 氏を迎え、発掘調査 より出土した文字資料のもつ 意味をはじめ、県内、野洲郡 内での出土資料の説明、近江 と平城京とのかかわりについ て講演していただきました。 また今話題の復屋王邸出土の



特別展コマ回し風景



特別展讚演会

木簡についても講演があり、予定していた2時間はあっという間に過ぎてしまいました。

また体験コーナーでは小学生を中心に、古代の遊びであるコマ回し、竹とんぼで楽しく遊んでもらうこともでき、有意義な一日を過ごしていただいたと思います。

☆お知らせ☆

今号でも掲載しました下長遺跡では、下記の通り現地説明会を予定しています。 5月の調査開始以来、縄文時代から古墳時代までにわたる遺構、遺物がみつかり、 多くの成果をあげることができましたので、多数の参加をお待ちしています。

記

日 時 9月16日(土) 午後1時30分~ 雨天の場合は17日(日)に同時刻で行います。

交 通 JR守山駅東口より近江バス古高線「古高工業団地」下車すぐ